2011 年冬合宿

北ア涸沢岳西尾根

2010 年 12 月 31 日～2011 年 1 月 3 日

メンバー：山本　実（L, 記）、釣　秀平、後藤　勉、平本　三浩

ここ 3～4 年、このルートを計画していたのだが、その度に天候悪く転進したりしていた。今年も直前の予報では今年一番の寒波襲来ということで又かという気持であったが、1日日程をずらせばチャンスがあるかもしれないので計画を実行することにした。まあ後藤さん共々寄る年波でラストチャンスといったところか。

12/31(金)　曇

前夜、新穂高温泉まで入るつもりであったが、テントを駐車場に張って濡らしたくないので、蒲田川を渡って左折暫く行った所の道の駅に前泊した。休憩所がありゆっくりとできた。

朝新穂高温泉の駐車場から重い荷物にあえぎながら林道を進む。新雪後ではあったがそれほど雪は多くない。ショートカットを交えながら穂高平へ着く。牧場を横切り林道を先に進むと、後藤さんの奥さんのパーテイが下山してくるのに落ち合う。槍平から新雪のラッセルに苦労して稜線に出られなかったとのこと、残念そうであった。

白出沢出合先の西尾根取付まで3時間もかかって到着。早々にアイゼンを付けて西尾根を登り始める

1800m付近は一旦緩やかになるが他は予定している 2400mのテンバまで延々と急登が続く。実は小生にとってはこの登りがひとつの山場であった。重荷を背負ってのボッカトレなどしてきたが、正直バテルのが不安であった。幸い雪もそれほど深くなく、スローペースながら樹林帯の中をひたすら登る。

4時間半ほどかかってようやく 2400mのテンバに上がる。ひとつ山場を越したか。一番にテントに入り天気図をとるが、あすは完全な西高東低の気圧配置で望み薄のよう。

1/1(土)小雪、風強し

風に遮られたこのテンバでは小雪ちらつく程度なので行ける所までという感じで出発する。先行パーテイのトレースを拝借して昨日にもまして急な樹林帯を1時間ほど登ると、南稜とのJPに上がる。この辺が森林限界か赤旗が何本も立ててある。帰路は間違えやすいところだ。

蒲田富士の登りはフィックスが張ってあり時々つかみながら登るが、余りいい気分ではない。登りきると傾斜は緩み滝谷側には雪庇が張り出している。ここまで上がるとさすがに風が強くなり視界も少なくなってくる。どうも 3000mの稜線まではきつい感じか。若干下ってF沢のコルに出ると猛烈な風の洗礼を受ける。この先行って行けないことはないが悪条件下で苦労することもないし、明日に期待をかけて引き返すことにする。

１時にはテントに戻り早々に一杯。平本君のマーボ春雨がうまかった。

1/2(日) 晴

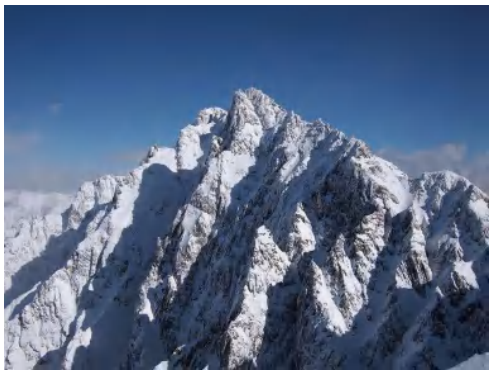
起きぬけ夜空を見上げると星がまたたいている。西高東低が少し緩んできたらしい。今日こそアタックだ。

６時前に出発できたので先行パーテイのトレースは今日はない。しかし昨日辿ったルートなので足取りは速く薄明るくなったころにはJPを通過し7時半蒲田富士の稜線にあがった。穂高の稜線が浮かび上がる。すばらしい天気だ。

【西尾根稜線をゆく】

【蒲田富士にて】

厳冬の穂高に相対するのは5年前の南岳西尾根以来となる。しかも今回は眼前にひろがっている。雪をビッシリ纏った滝谷が壮絶な姿を現す。思わずルートを眼で追ってしまう。感動もそこそこにF沢のコルから少し上がって岩稜右手のルンゼの状況をうかがう。新雪もうっすら程度で雪崩



【厳冬の滝谷】

の心配も少なそうだ。釣さんをトップに左の岩稜よりにルンゼを登る。中間でラッセルになったため右手の堅雪の斜面に右上し稜線に上がる。

あとは容易な岩稜で高さを稼ぐにつれ、槍や北穂、前穂北尾根など見えてきてすばらしい景観であった。10時 20 分涸沢岳着。

【西尾根上部】

歩き始めて4時間半、まあいいペースか。私はこの時間なら奥穂までと考えていたが、メンバーはどうも腰が重い。とりあえず白出のコルへ下って相談することにした。穂高山荘の前まで行くと奥穂は眼前である。往復 2 時間ちょっとでいくと考えたが、メンバーの1人は帰幕時間が遅くなるという理由で戻ることを主張する。ここまで来てという気持ちはあったが無理強いしてもしょうがないので引き返すことにする。後ろ髪をひかれながら白出のコルを後にする。

帰路はグングンはかどり高度を下げてゆく。まだ時間が早いので、F沢のコルで大休止をとる。温度は低いのに陽光を浴びてポカポカ暖かい。白出沢にはダイヤモンドダストが舞いピラーになって見える。なんとも美しい。穂高からのプレゼントを見ながら下山。2時 40 分帰幕。

【西尾根下山】

1/3（月） 晴

今日は下山なのでのんびりと用意していたら、平本君が急にギックリ腰になる。持参の痛み止めを飲むが、

動くことができない。撤収前のテントに入れガスストーブをつけて、しばらく様子を見ることにする。1 時間ほどで薬が効いてきたか何とか歩けるようにはなったので、荷物を分担して残りメンバーで担ぎ、空身で下りることにする。前後に人をつけて、滑らぬようにスローペースで下山する。幸いなんとか無事に取付まで戻ることができた。それにしても急な体の故障はこわい。新穂高温泉に 12 時 50 分に帰着して、思わぬ好天に恵まれた今年の冬山合宿は終わった。

コースタイム：

12/31　新穂高温泉 7:20～西尾根取付 10:20～2400m付近 14:50

1/1　テンバ 7:00～蒲田富士 10:30～F沢のコル 11:00～テント 13:00

1/2　テント 5:50～蒲田富士 7:20～F沢のコル 8:00～稜線 9:00～涸沢岳 10:20-10:30～白出のコル 11:00-11:20～F沢のコル 12:30-13:10～2400mテント 14:40

1/3　テン場 9:00～新穂高温泉 12:50

地図：笠ヶ岳、穂高岳（2 万 5 千）

追記：

アタック日に時間的に奥穂まで行くことは可能であったが、メンバーの意識が涸沢岳まで行けば目的は達したという雰囲気　になってしまったことは否めない。

計画書には奥穂往復を明示したが、パーテイとしてアグレッシブな姿勢をとれなかったことはリーダーとして大いに反省している。

とはいえ小生としては、奥穂の頂を踏めなかった事にどうしても悔いが残る結果となってしまった。

【奥穂高岳】

【前　穂　北　尾　根】

（写　真　：平　本　）